

生駒南小・中学校の今後を考える会議

第1回会議 会議録

開催日時 令和4年7月14日（木） 午後3時から午後5時15分

開催場所 生駒南小学校 第2多目的室

出席者

（参加者） 田中康博、西澤十三夫、松尾正則、辻本得延、根來健夫、
山田龍三、吉田昭、後藤香里、本山恵造、岡村典子、中田眞知子、
大久保智子、眞井英司、奥田隆史、辻本宣之

（事務局） 原井教育長、奥田教育こども部長、山本教育総務課長、前田教育
指導課長、日高教育指導課教育政策室長、三室教育指導課教育政
策室主幹、松田教育指導課教育政策室教育政策係長

（傍聴者） 無し

欠席者 日高容子

配布資料

資料1 これまでの経緯

資料2 「生駒南小・中学校の今後を考える会議」開催要綱

資料3 「生駒南小・中学校の今後を考える会議」参加者名簿

資料4 生駒市教育大綱、生駒市立小・中学校のあり方に関する基本的な
考え方（抜粋）

資料5 生駒南小中学校の児童生徒数推移見込み

資料6 通学区域図

資料7 今後の予定について

参考資料 学校再編等についての意見書の提出について

※事務局より配布資料確認

教育長挨拶

本日は「生駒南小・中学校の今後を考える会議」ということで、この南小学校、
南中学校が、今後子どもたちを中心に考えて、どういう教育環境をつくること
が子どもたちにとって最適なのかということをしつかりと念頭に置いた上で、

様々な視点・観点から検討を重ね、今後の方向性を見出だしていきたいと思っています。

本日は事務局から、多くの資料を提示し、事務局案をお示しする中で、皆様方に様々なお立場からご意見を頂戴したいと思います。

(事務局) 次第に基づき会議を進めます。

次第1 会議の趣旨及び会議要綱について

【資料1】【資料2】は、参加者の中でこれまでの経緯をご存じない方もいるので改めて説明します。全国的な少子化等を踏まえ、学校規模適正化に伴う課題に対して、令和2年10月教育委員会として、「生駒市立小・中学校のあり方に関する基本的な考え方」を策定しました。これを踏まえ、南小学校区でも地域協議会を立ち上げ、令和3年7月には「学校再編に係る地域協議会からの意見書」が提出されました。令和3年11月には、これまでの経緯を斟酌し、「生駒市立小・中学校の再編に係る方向性」を教育委員会として決定しました。その「生駒市立小・中学校の再編等に係る方向性について」の中には、「今後の具体的な取組について」という項目の中で、『関係者で構成される新たな協議会の立ち上げも含め、生駒南小学校、生駒南中学校の改修のあり方と、生駒南中学校の規模の適性化、及び市内全体の校区の見直しを速やかに検討していく』と言及されています。このことを踏まえ、この会議を設置しました。

【資料2】は、この会議の開催要綱です。1条は、会議の趣旨を記載しています。2条は、皆様方にご意見を求める事項を記載しています。3条は、参加者についての記載です。4条は、会議を原則公開とすることについて記載しています。5条は、傍聴を許可することについて記載しています。6条は、会議資料を公開することを記載しています。これまでが、【資料1】【資料2】の説明となります。何かご意見ご質問等ございますでしょうか。

(参加者) 昨年度、意見書を出されたようですが、初めて参加する者として、どのような意見書を出されたのかわからないので資料として用意していただけたらありがたいです。

(事務局) 内容としましては、生駒南第二小学校と南小学校を当時統合するか

しないかの話があった中で、基本的には南第二小学校側をどうしていくかという記載がほとんどです。その中で、この南小学校・中学校側につきましても、老朽化が激しいこと等を踏まえた記載があります。南小学校・中学校に関するところの意見を踏まえて、教育委員会として意見をまとめたものが、先程経緯に書かせてもらった部分になります。「学校再編等についての意見書の提出について」を参考資料として、ご覧いただければ、わかっているかと思えます。

次第2 参加者順に自己紹介

次第3 生駒市教育大綱及び小中一貫教育の考え方について

(事務局)

前回の会議の中で、市としての方針を改めて教えて欲しいとの声がありましたので、生駒市教育大綱、そして小中一貫教育の考え方についてお伝えをします。【資料4】をご覧ください。表面には、教育大綱の体系図を、裏面には、教育委員会で決定した「生駒市立小・中学校のあり方に関する基本的な考え方」の抜粋を載せています。まず、表面の教育大綱では、『「遊ぼう」「学ぼう」「生きよう」みんなでいこまを楽しもう』という基本理念を掲げ、その中の基本方針2では、主に学校教育のことを記載していますが、「21世紀を生き抜くしなやかでたくましい人づくり」を掲げ、そこから5つの柱を設けています。1つ目の柱が、地域に開かれ、地域とともにある学校づくりの推進、2つ目の柱が、ICT機器を活用した新たな学びの創出と時代に応じた環境整備、3つ目の柱が、多様性を認める柔軟性とやさしい心の育成、4つ目の柱が、主体的に学び、挑戦を続けるたくましい心の育成、5つ目の柱が、「楽しい授業づくり」のための教職員の育成と環境整備という基本方針を教育大綱では設けています。裏面では、令和2年10月に教育委員会で策定した「生駒市立小・中学校のあり方に関する基本的な考え方」の抜粋です。その中に、魅力的な学校づくりの推進の項目があり、小中一貫教育の推進ということで記載しており、1段落目の3行目「今後」から始まるセンテンスをご覧ください。『今後、小中一貫教育や学

校再編が実施されることにより、小1プロブレム・中1ギャップ等の校種間の段差による課題の解消や小学校高学年における教科の専門的な指導の充実、児童生徒のつまずきやすい学習内容についての長期的な視点に立ったきめ細かな指導等はもちろんのこと、第2次生駒市教育大綱に掲げる基本方針「21世紀を生き抜くしなやかでたくましい人づくり」を柱とした、9年間を見通した小中一貫教育を一層推進していきます』と記載をしています。教育委員会として、新たな教育大綱を進めていくために、小中一貫教育が有効であるということで、それを進めていくことは決定しています。これが、大きな市としての方針を示すということなのです。このことについて、何かご意見がありましたらよろしくお願いします。

(参加者) これまでの会議は、南第二小学校との関係で考えていこうということで結論が出て、皆さんの意見を含んだ形で南第二小学校は残ると、これが大きな争点だったと思います。南小学校・中学校の老朽化について解決していかなければならないという部分では、小中一貫教育とした市の考えは予算付けできるか、この意見書からははっきりとわかりません。市としては、小中一貫教育をやるという方向性で今述べられましたが、私はこれまでの会議の中で、小学校・中学校は一貫というよりも、竹に節があるように人間の成長にも発達段階において節目があることが望ましいのではないかと、小学校、中学校、高校という節、これまでの6・3・3制についての不都合は感じないし、子どもの成長、例えば小学校の集団の中で位置づけられている体力の面や知的な面で、中学で新しい場面ができた時に新しく自分の持っている可能性について考えていく、こういうことは良いのではないかと思います。小中一貫教育9年制にすることが、子どもの教育のためには良いという論拠は果たしてこの文書だけで、ちゃんと証明されているのだろうか、そういったことをもう少し議論していただきたいと思います。

(教育長) ご意見ありがとうございます。結論ありきということではありません。ただ、そのことも含めて、後程提案がありますが、例えば先進校の視察、それから一貫校と言いましても、生駒北小中学校のように小学校、中学校と校舎一体型であるけれども、小学校、中学校の

区切りがある学校もありますし、4・3・2制、前期・中期・後期という形でわかれた一貫教育をしている学校もありますし、いろいろな方法や考え方があるかと思います。この地域でこの南小学校、南中学校の子どもたちにとって、どういう環境をつくっていくことが成長や学びにとって一番良いのか、また先生方との出会いをどんなようにつくっていくかは、これから皆様と一緒に考えていけたらと思っております。

(参加者) 「9年間を見通した小中一貫教育を一層推進していきます」とありましたが、その中で小1プロブレム・中1ギャップ等の校種間の段差による課題ということが、具体的にどういうことなのか教えていただきたいということと、学校統廃合や小中一貫校についての話は、2000年からもう始まっているはずなので、すでにいろんな実践を学校が行っていて、結果や報告があると思うのですが、今それに向かっていく私たちにそういうデータを見せていただけませんか。小1プロブレム・中1ギャップ等の校種間の段差による課題がどういうものなのか、私が思っていることと教育委員会の方々が考えていることが果たして同じなのか、私は悪いことではないと思っているのですが、ここに挙げられているということは、もしかしたら私と違う何かがあるのかと思いましたので、質問させていただきました。

(事務局) 今言われているのは、小学校に上がる際に保育園・幼稚園からの環境が変わって小学校という集団生活に入る、そこで、なかなか学校に来にくくなる子どもがいるということ、中学校に上がる中1の時に、小学校から中学校に変わると急に教科担任制が始まる。そこで今まで担任の先生とずっと人間関係を保っていた子どもたちが、教科担任制が始まると誰に相談して良いのかわからないというところから、つまづきがあったり、中間テスト・期末テストの定期テストへの対応ができないことで学力の不安で学校に行けないということが挙げられていて、このギャップを無くしていくことで、保幼小連携事業を行ったり、小、中学校でも連携を行って、小中一貫校に限らず、小学校、中学校で学校へ行く前に入学説明会や体験入学を行うことでスムーズな移行ができるように取り組んでいるところ。その中の一つとして、ここで挙げられている小中一貫校で、

例えば施設が一緒であれば、小中学生が一緒に生活することによって自然な交流ができる、6年生から中1に上がるときに大きく環境が変わるといことがない、あと、学校が小規模になってきますと、中学校で専科の先生の数が減ってくると、極端な話をいえば美術の先生がいない、美術の先生が配置されない場合に、小中一貫校であれば、小学校の中に中学校の美術の免許を持っている先生が赴任された時に中学校の授業に行くことができるといった専門的な教科の交流といったこともできるようになると考えられます。そういったところで、市では小中一貫教育を進め、小1プロブレム・中1ギャップにいろいろと対応しているところです。

(参加者) 小1プロブレム・中1ギャップ等についての考え方を聞かせていただきまして、2000年くらいから始まっている学校の統廃合や小中一貫校に向けてのいろんな報告があると思うのですが、実際に統合や小中一貫校にした学校が果たしてどのような子どもたちに良い影響を与えたのか、悪い影響を与えたのか、来年小学校に上がる親の身としてはどちらも全部聞きたいです。これは個人的な考えになるかもしれませんが、小1プロブレム・中1ギャップという子どもがつまづくことに関しては、悪いことではないと思っているのですが、それを取り除くことが果たして、子どもたちの将来に良いことなのかと思います。幼稚園から小学校、小学校から中学校、中学校から高校、高校から大学生になる子、また社会人になる子、アルバイトする子いろいろいると思うのですが、ぶつかっていくと思うのです。その経験を積むことがとても大事だと思っているのです。皆さんも経験されてきた、環境の変化にぶつかってみて自分は何がしんどいのか、自分は何が得意なのかを知る機会だと思うのです。あと、小規模校であれば教科担任の先生の数が足りないとなると小学校の先生が中学校で教えてくださるとかありましたが、現時点での小学校の先生はものすごく忙しくないのですか。そういうことが可能なのか、先生の負担が増えるのではないかという心配があるのですが、どうでしょうか。

(事務局) 9年間を見通した教育を行うから何も課題がなくなるのではなく、今問題になっているのは、その課題にぶつかったことで学校に行け

なくなる子がいるということです。不登校から立ち直ることができない子どもたちがいるということで、そのハードルをいかにして越えやすい課題にしてあげるのかというところです。決して何もなくなる訳ではありません。中学校に行けばクラブ活動が始まりますし、定期テストは絶対にある訳です。乗り越えなければならない壁というものは必ずあるのですが、それ以外ところでのつまずきをできるだけ軽減していくという方法の一つとして考えられるということです。また、生駒市内ですと、生駒北小中学校が施設一体型で、小学校と中学校で分かれてはいるのですが、小中一貫校として運営しています。その中での成果として、平成31年4月のあり方検討委員会で報告させていただいているのですが、書写や図工といった専門性の必要な教科での児童の技能が高まっていたり、児童生徒が体験したり考えを進めることができた、中学1年生が教科担任制に戸惑う割合が学力調査等の質問項目の中で、生駒市の平均と北小中学校の平均と比べますと教科担任制に戸惑うことがありますかという調査で北小中学校の子どもたちは、他の学校に比べると少ない回答になっています。自分が上級生からどう思われているか気になりますか、という調査にしても市全体よりも北小中学校の子どもの方が、どう思われているか気になると答えている子が少なく、スムーズに入れているのではないかと、ということが学校からの報告で挙げられています。学校行事を合同で行うことによって幅広い人間関係をつくることができた、ということであったり、中学生の自己肯定感、自己有用感、規範意識が育ったというところであったり、学校からの報告で考察されています。課題としては、小中学校の体制を整えるためのカリキュラムのマネジメント、組織マネジメントを非常に考えなければならないというところや、時間割の組み方等の工夫が必要になるということが学校から課題として挙げられています。先生方の負担については、例えば小学校の図工の専科の先生が中学校に行ったりすることは、学級数が少なければ、そんなに負担になるという訳ではないと思われま。

(教育長) 小学校は、基本的には教員が全教科を教えるということで、全教科の授業準備、評価をします。中学校になると教科担任なので、

国語の授業であれば、3クラスあれば1回の教材研究で3回授業ができる、自分の教える教科も少なくなるということで、今、小学校高学年の教科担任を文部科学省も進めているところです。小学校の先生も教科担任を導入することによって、自分の専門教科や、得意教科を伸ばしていけるし、教材研究や授業準備が少なくて済むところでの利点があります。この辺りは、また先進地の視察や説明を受ける中で、実際に4月から取り組まれている学校に8月に行かせていただいて、始めるにあたっての成果や課題を直接聞かせていただく機会を持ちたいと思っています。

(参加者) 小中一貫の方向性の意見を出していく、まとめていくということで、私としてもいい加減な気持ちで会議に参加できない、一地域の間人として責任ある問題であると感じています。小1プロブレムや中1ギャップ等の説明がありましたが、例えば不登校について生駒市では50名くらいいるのではないかとこの話も聞いたことがあります、小中一貫校にした時に不登校の数がどれだけ減っているのか、現在どういう状況なのか、北小中学校はほとんどないという実績があるならば、これは良いことだと思いますよね、その辺の資料をもう少し具体的に出して欲しいです。教科担任制は、教師が持っている専門性の部分もあって教えやすいところもあります。ただし、子どもにとって、一人の担任教師からずっと同じことを教えていただくことが発達段階では適している状況が多々あると思います。教科担任制でおこなった時に良い段階とそうでない段階とがあり、だからおそらくこれまでの教育システム、幼小中高大の形で、発達段階に応じた教育システムで専門性を入れていったと思うのです。そこら辺も考えて、もう少し教科担任制が絶対必要であるとか、中1ギャップと校種間の段差による課題と書かれていますが、抽象的な言葉ですので、もっと具体的に、こういった課題があるからというのであれば、小中一貫校が良ければ全国的に文科省を中心にして旗揚げして動かしていったら良いと思うので、ただ、ここには全然書かれていない。小中一貫校という中で、経済合理性が裏の辺りに隠されているのではないか、丁寧な教育というよりも経済的な面で進めていこうというようなニュアンスが考えられて仕方がないのです。だか

ら、そこを十分説明していただきたいと思います。

(教育長) 今日、まず話題を提供させていただきました。次の会議までに、小中一貫のあり方についてのメリット・デメリット、文科省等小中一貫の考え方の資料、また、今お話しに出たような客観的な成果を資料化したものを準備させていただいて、継続して話をしていただくということではいかがでしょうか。

(参加者) この場の会議というのは、基本的には、資料として出されました「生駒市立小・中学校のあり方に関する基本的な考え方」で一応、生駒市としては、これはもう進もうとなっている訳です。その中で、お集りの皆さん方は、この小中一貫教育の是非を問う会ではないです。生駒南小・中学校の今後のあり方をどうしたらいいのだろうかということを考えていく会議と思って、私は認識して参加しています。初めての方もいらっしゃるし、私もよくわからないところもありますけれども、その都度、資料を提供していただきながら、生駒南小学校、南中学校に通う子どもたちが、いかに楽しく勉強できるような場づくりをするためにはどうしたら良いか、これを小中一貫教育推進の是非を問う会議ではないと私は思っていますので、そのところは仕分けをしてやらないと前に進まないのではないかと思っています。

(参加者) もうこれは決定なのですか。

(事務局) 決定というか、小中一貫教育を進めるということは、教育委員会の基本的な考え方として全市的に確認している部分です。ただやり方として、一か所の部分に義務教育学校という方法もありますし、北小中学校のように北小、北中という形の小学校と中学校、学校としては独立しているのですが、建物として1つの中に入っている学校もあります。もう一つ、小中一貫校でも、今のこの南小・南中学校にしても、隣接した学校として小中一貫教育として連携はしているのです。あと、隣接型として、少し学校が離れたところにある、例えば壺分小学校と大瀬中学校であっても、つながりのある教育をやっていますが、あまり離れると逆に中学校の先生が小学校に行ったり、小学校の先生が中学校に行ったりすることがなかなかできない、機会が持てない、そういう意味では隣接しているところは連携も持

ちやすい。もう一つ言うと、同じ建物の中に居れば、毎日顔を合わしていただきますので、連携というのは持ちやすいところがあります。小中一貫教育として、今議論する部分としては、最初に言われたように、以前からそういう話は出ているので、生駒市としての考え方は、小中一貫教育を進めていきたいと思いますという話で考え方としては決まっています。小中一貫教育の進め方というのは、どういう風にしていくかは、今後南小・中学校でどういう建物を建てて、どういう教育をしていくかを進めていくことになるかと思えます。現在も連携して、ここの学校運営協議会も1つでやっておられたりする事です。そういう風に考えていただけたら結構かと思えます。

(参加者) では、小中一貫が決定で、もう進めているので、いかにして子どもにとって良い方になるか、このことについて保護者はどれくらい認知していますか。今度、南小学校に入学する保護者の皆さん、あるいは在籍している保護者の皆さん、どれくらいご存じですか。私全然、わからないのですが。どうするのかを決めるのだと思って、この校区に来年通うお子さんがいらっしゃるから、出てくださいと言われたのですけれども。もうそれは決まっている事であって、その中身を今から決めていきたいと思いますという会議なのではないでしょうか。

(事務局) 小中一貫教育と言いますか、小中連携のことは、ずっと行っていることです。今後それをもっと進めていくにあたって、小中別々で棟を建てて完全分離型にしてしまうのではなくて、小中同じ敷地内で北小中学校のように小学生、中学生が近くにいる環境で新しい学校を建てて、その中でどんな風な小中一貫教育をやっていくのかというのを皆さんと考えていくというイメージで進めたいと思っています。

(参加者) ということは、決定ということですね。

(教育長) 小中連携を進めているということでは、例えば、一つの例として、外国語の小学校の活動が、小学校の先生と中学校の先生が一つの研修会を持って、どう小学校の外国語活動を中学校の英語につないでいくかという研修、これも小中の連携の一つです。同じように、幼稚園・保育園の先生と小学校が連携して研修を行っています。それは直接保護者の方には見えていない部分ですが、そういう意識を持

って私たちは小1プロブレム・中1ギャップをなくすために、様々な取組を継続して、それぞれの学校や市全体を挙げて行っています。だから、小中一貫教育が始まっているというのは、できることから小と中、幼保と小が、先生方が交流や研修を一緒にしながら進めているということです。この南小学校、南中学校においては、まず校舎をどうしていくのか、それぞれ校舎が古くなっていて、大規模改修では間に合わない、そこで一つの大きなきれいな校舎を一からつくって、小学生、中学生と一緒に学ぶメリットが大きいのではないかと、小・中学校の先生方が出入りをするようなカリキュラムをつくり、校舎を一体型にすることによって、より子どもたちに学びの最適化を図れるのではないかと考えています。これから取り組む小中一貫教育というのは、いろいろな方法があると思います。そこはまだ決まっていない部分であって、小学校と中学校と分かれた上でやっていく9年間というのもありますし、前期の1年から4年、5年から中1までを中期、中2・3を後期としてカリキュラムをつくっていくという学校もあります。そういういろいろな方法のメリット・デメリットをしっかりと勉強し、先進地も見ながら考えていけたらと思っています。

(参加者) 初めに小中一貫校と聞いたら、1年生から9年生まであって一貫校として進められると思っていたのです。今伺いしていたら、いろんなパターンをこれから模索するということですね。形としてではなく、今までもカリキュラムを継続できるような形でやっていたので、それをいかにもっと充実させていくか、また導入していくかという事なのですね。小中一貫校と聞いたら、中学校がなくなって1年生から9年生まであって、9年生で卒業といったイメージで思っていたのですが、一応小学校、中学校があって、卒業式などもする、それを今からどういう形にするか考えましょうという会議なのでしょう。

(教育長) それは、この会議だけでなく、もちろん教育委員会としても考えることで、視察も教育委員と一緒にいきます。

(参加者) それとともに、やはり子どもの人数ですね。1クラスになってしまうと大変なことになるから、そのことも含めて、どういう形にして

いくかということを考えましょうという事でよろしいでしょうか。
(教育長) それを今から提案させていただきます。

次第6 今後の予定について

(事務局) 【資料7】を先にご覧ください。今後の予定を示しておりますが、基本的に老朽化の問題がある中で早く建て替えることを考えると、R5、R6、R7、R8で基本設計、実施設計、そして建築工事を実施するにあたり、4年は少なくとも必要だと思っています。そこから逆算すると、この会議の場を3回程度設けて、今話題に出ている、小中一貫教育のいろんな形がある中で、新しい校舎を建てるにあたっては子どもの数であるとか規模感というのを掴んでからでないと建てられないので、一体型にするのか方向性を今年度中には決めたいと思っています。それによって本日、第1回の会議を設けている訳ですが、2回目を10月頃にできればと思っています。それまでに、8月22日に王寺町の王寺北義務教育学校に教育委員会の委員さんも含めた視察を考えています。日程的には先方のこともありますので、8月22日でお願いしたいと思います。視察も行って、情報も集めて、南小・中学校の中でどんな形が一番理想的であるかの話を進められれば良いと思っていますので、よろしく願いします。

次第4 児童生徒数推移見込みについて

次第5 校区について

(事務局) 次に次第の4と5を一緒に説明したいと思います。【資料5-1】については、現時点で想定できる、南小・中学校の児童生徒数の推移を見込んだものです。現在の校区をある程度反映させた推移になります。令和4年度の児童生徒数については、5月1日に行っております、学校基本調査の値です。令和5年度以降の新1年生は、現在の住民基本台帳から記載をしています。南中学校の1年生については、南小学校の卒業生である6年生をベースにしつつ、小瀬町にお住いの子どもたちは、基本的に大瀬中学校に行く想定で、この表は推移をさせています。【資料5-2】については、南小学校の子

どもたちが、南中学校にそのまま同数スライドさせたパターンです。小瀬町の子どもたちで、南小学校に行っている子どもたちは、そのまま南中学校に行く想定をしている推移表になります。これが【資料5-1】【資料5-2】です。【資料6】については、【資料6-1】が、小学校の通学区域図を視覚化させたもの、【資料6-2】が、中学校の通学区域図を視覚化させたものです。小学校の校区については、基本的には横で区切っている、中学校の校区については、縦に区切っている校区の区域図になっています。【資料5-1】について、もう少し細かく説明をします。今の校区での子どもの数については、南小学校が左側の表になっています。南中学校が右側の表になっています。一番右端の濃くしている部分が、小中の子どもの数を合計しています。ここの考え方については、例えば南小学校の令和4年度の6年生が66人いるかと思えます。この66人が南中学校の令和5年度の卒業予定者数に基本的にはスライドするようにはしていますが、現校区でいうと、小瀬町については、中学校が大瀬中学校になりますので、小瀬町にお住まいで南小学校に通っている子どもが、5年平均で19人いらっしゃいます。さらに、小瀬町の中に調整区域というものがあまして、竜田川から西側ですが、その調整区域にお住まいの2人程度は、南中学校に行っておられます。ということで、19人出て、2人戻ってくる、17人が今の校区でいくと、南小学校から南中学校に異動する際に減少する数として想定しているのが、この表です。更に、その中で公立の中学に行く率を入学率として95.6%を掛けており、1年生の生徒数を算出した表になります。これが【資料5-1】の表です。【資料5-2】については、小瀬町で南小学校に通っている子どもたちは、基本的にそのまま近くにある南中学校に通えるということを想定した際の推移表になります。ですので、基本的には令和4年度の南小学校の6年生が66人、この66人が南中学校の令和5年度の卒業予定者数の66人というところに同数で推移させています。入学率はそのまま同じ条件にしていますので、【資料5-2】の表のようになります。【資料5-1】の表でいくと、南中学校の方でも令和8年度には1クラスというのが出てくるのですが、【資料5-2】の表では、

基本的には1クラスの学年は、令和9年度までは出てこないという事になります。あくまで、一定の想定をした上での推移表になります。この辺りでご意見をいただければと思います。

(事務局) 説明させていただいているものは、現在出ているものになりますが、今後社会情勢、転入、転出によって若干変わってくる、例えば住宅地ができたなら、子どもが増加することもあるでしょうし、転出するような要件が出てくれば減少することもあると思います。令和9年までは、実際に生まれている子どもさんの数ですので、その方が動かないということであれば、この人数になります、ということです。特に昨年度は生まれているお子さんがかなり少なかったので、若干減るかという風には思っていたのですが、この数になっています。

(参加者) この見込みなのですけれども、今年から小瀬では75軒くらい新しい住宅が建って、引っ越して来られます。あと、壱分東にも4、5年先には500軒くらい建つ予定です。そういった数は全然入っていない。この見込みは、現状をそのままスライドして人口が減ってきたとあり、あまり意味がないと思います。

(事務局) 現時点での数字しか落とせないなので、これについてはご理解ください。イメージを持っていただけたら一番良いです。

(参加者) 校区の変更もしていかないといけない。

(事務局) 社会増と言われる、家が建つというような事も、今後も毎年続いていくということです。現在の数字でしか拾えないので、これについては、現状で推移した場合についての数字をお示しさせていただいているのですが、ここから減増があった場合、例えば大きな開発があった場合で子どもさんが増えるということであれば、今予定している、例えば2クラスで予定していることも、3クラスいるということになっていきますので、そういった時の対応については、そこを鑑みながら進めていかないといけない。計画が1年ずつ延びると、その対応が後追いで来ますので、これについては今現在の数字しか入れられないので、予定数というのは入れておりません。

今現在の数字でしか拾えていないですけれども、小学校では35人学級に徐々になっていくこと、中学校の方についてはまだ40人学級ということになっていますので、小学校、中学校を2つ建てた場

合は、当然その教室が要ります。ただ一つにした場合は、会議室を一つ設けたら良いとか、特別教室、理科室とか図工室であるとかの数といったものも大規模のところであれば音楽室が2つあったりとかもありますので、その規模感というものを掴んでいかないといけないということなのです。そこに加えて、例えば校区が広がった場合についてはまた増えてくる。現時点での数字ということではありますが、イメージ感なのです、それで考えていただけたらと思います。

(参加者) 生徒数が減ってくるというのはわかるのですが、今回のこの会議は、小中の一貫の問題もそうですし、まずは校舎の建替というのが前提にあるような気がするのですが、今出た話も含めると、特に南地区の校区の見直しということを将来的にやっていかないと、一方では大きな規模になりつつある、一方では少なくなっていく、この問題をちゃんと見据えないで、校舎の建替を急ぐとなると、そのために小中一貫だということではおかしいのではないかと思います。校舎の建替と校区をどうするかということが、ものすごく深いつながりがあるのではないかと思います。ある程度の将来の見通しを持たないと、こういう風な校舎を建てるということにならない。小中一貫の校舎、経済合理性が優先された校舎を建てたら良いのではないかという発想ではいけないと思います。やはりそれなりの規模を持った、今までの6、3、3制といったことは、特に小学校の高学年にとっては、教育的な制度だと私は思っております。だから安易に小中一貫にしたらいい、校舎のためであるというのでは発想が逆ではないかと思います。従って、やっぱり校区の見直しを考えながら将来の校舎をどう考えていくかということを考えるべきではないかと思っています。

(事務局) 現在、生駒市では町ごとで校区を分けています。小学校であれば、小平尾町は、本来は南第二小学校になっていて、ただ、隣接校選択制というのを利用して北小平尾の自治会の方はほぼ南小学校にいられているのではないかと思います。町ごとに校区を決めておりますので、今現在の区域割でいくと【資料6-1】【資料6-2】を見ていただいたらわかるように、壺分町であれば、南小学校の方が

近いようにも見えるところもありますし、小瀬町についても、中学校であれば大瀬中学校区になるのですけれども、特に南生駒駅周辺であれば南中学校に来られる方が近いという状況があると思います。調整区域というのが現在、小瀬町の場合ですね、竜田川より西の部分について南中学校に来ていただくことが可能という選択を取らせていただいています。小学校であれば、小平尾町も少し調整区域が入っていたのではないかなと思います。そういう調整区域という形を取っており、校区の見直しとなりますと、かなりのご意見を聞いて、時間をかけないとなかなか決まらないです。正直言って、この校舎の改修というのは、かなり老朽化が進んでおりますので、できるだけ早く建替させていただいた方が良く考えています。市のファシリティマネジメントというものがあまして、建替の基準である、改修の基準を持っているのですが、それでいうと令和11年までにはここを更新しないとイケないといわれています。そういう考えからすると、できるだけ早く計画を立てて、建替を進めた方が良く思っています。おっしゃることもすごくよくわかって、大瀬中学校がかなりの大規模なので、その問題を解決するためにも、南中学校の問題を解決するためにも、校区の見直しをすることはすごく大事なことだと思うので、市として考えているのは、調整区域をかなり広げさせてもらって、そこからどう来ていただくか、人数の割振が変わるような形を取らせていただけたらと思います。それであればかなり短い、住民の方もどちらでも行けるという選択肢になるので反対される方が少なくなるかと思っています。いかがでしょうか。

(参加者) 資料を見ていたら、今の校区でしたら将来的に1クラスになるかもわからないという事ですよ。この1クラスになるということについて教育委員会としてはどう考えているのか、これを2クラスに守るためにも何か必要になると思うのですが、その辺どう考えているのか、教育委員会の考えを聞きたいのです。

(事務局) 教育委員会としても、小規模校が必ずしも悪いと言っている訳ではないですが、あるべき姿として、できたら1学年が複数クラスである方が良く思っています。人数を確保するために校区の見直しが

必要だということですが、それに時間が必要ということもあって、提案させていただいた調整区域というものをある程度広げさせてもらって、南小学校出身の方が小瀬町は特に多いので、南中学校に来ていただける方を増やす形を取りたい、そうすることによって大瀬中学校の大規模であることで出ている問題点、デメリットというところを解消できるのかと思っています。南中学校の方もある程度の人数も確保できて、例えばクラブ活動がいろいろとできると考えています。そういう意味合いで、先程言ったような提案をさせていただいた訳です。

(参加者) 校舎の建替を急ぐというのはわかるのですが、それでしたら南中学校の各クラスを最低2つ確保するという前提で校舎の改修を進めていくということですか。

(事務局) 基本的には、1学年が複数クラスになるような校舎配置は最低必要だと考えています。

(参加者) 南小、南中学校は築何年ですか。

(事務局) 50年は超えているはずです。

(参加者) コンクリートの耐用年数は50年ですよ。早く始めないと。

(事務局) そうです。そういうこともあるので、もちろんそれはわかっています。

(参加者) 話を蒸し返すつもりはないのですがけれども、南第二小学校の時は市の意向としては南小学校と合併したいという形だけれども、皆さんの意見を聞いて妥当な線に行ったと私は思っています。今回は、一番大きい問題としては、校舎の建替の問題、それと一貫性のある学校づくりというのか、9年生の学校をつくるというのは、これは別の問題だと思います。もしも、市として小中一貫の形で進めたい、それが前の南第二小学校の会議で変更したように、小中一貫にするのをやっぱりみんなもちょっとためらっている、分離した方が良いのではないかという意見も当然出てくるだろうから、建替の問題は建替問題で、将来を見越してフレキシブルな校舎の建替をされて、将来的に統合するなら統合するとか、連携についてはあたり前にやっているのだから、どういう校舎であろうとできるはずですので、老朽化の問題と一貫教育にするというのは別の問題なので、そこは

きちっとわきまえてやらないといけないのではないかなと思います。地区の大きな教育の問題なので。生駒市が決めている方向性とかあるが、一般住民はそんなこと頭に入っていません。小・中学校をどういう形の内容にするかはいろんな会議で進めてやっていくと言われたが、別の問題だと思いますので別個にやって欲しい。

(事務局) 建替を早急にという考え方がありますので、まずはとにかく建物をどのように建てるのかということから考えていかないといけないと思っています。その中で、我々が提案させていただいている小中一貫教育というのは、いろいろと考えている中で調整区域をつくる、調整区域の方々に是非南小・中学校の方に来ていただく。そういう魅力的な学校づくりというのを今後考えていかなければならない中で、小中一貫教育というのは、皆さんにお示しできる一つの方向性かと思っています。ただ、それを絶対しないといけないという風に進めていくのではないのですけれども、他の学校もそうですが、生駒市内の他の学校は施設が分離していても一貫教育を進めていかなければならない状況になっていきますので、南小・中学校については今のこの機会に施設をどのように建て替えるかということと小中一貫教育と一緒に考えていけたらいいのですが、まずは早く形を整えていきたいと、そこが第一だと思っています。

(参加者) 今、私が一番心配しているのが南中学校なのです。老朽化とかわかってはいます。わかっているけれども、今後、全部壱分小学校から大瀬中学校の地区に開発すると大瀬中学校はどんどん増えていく。南中学校が減っていく、そうすると調整区域の人が小学校は南小学校に来ているけれど、中学校は選べないから大瀬中学校に行かないといけない。この辺は教育委員会が改めていったらいいと思う。北小平尾は、小学校の校区が南第二小学校ですが、今多分4人しかいないのです。だから南第二小学校も減っている訳です。今から40年前は、北小平尾は全部南小学校に行っていました。我々の地元が協力して南第二小学校に行きましようと思ったのです。今度は逆に、途中からいろいろな問題があって、選択制度で、北小平尾から地域の近くの南小学校に行くのは安全で確実なので、南小学校に来るのはわかっている。中学校は、逆に小瀬町は調整区域で南中学校に行

く、壱分西は、昔は南中学校に来ていたはずなのですよ、それが今は、壱分西の人は一旦高いところから下りていって、川を渡っていって上って大瀬中学校へ行く。中学生ですから健康づくりのために良いかもわからないが、南中学校に来れば、南中学校もこれだけ生徒が減らなかった。そして、中学時代に健康づくりのための、部活動が盛んに行われるのではないかと思います。南中学校の生徒はかわいそうだと思います。人数が減って、好きな部活もできない、だから今は地域でなんとかするとやっていますけれども、現実にはなかなか上手く進まないと思いますので。そういう意味での見直しというのは早急にやらないといけないと思うし、調整区域の人は南中学校でも行っていいよとなれば、南中学校も助かるのではないのかと思います。そういうプラスアルファを見て、校舎の建替を考えていただけたらと思うし、私は、小中一貫教育で、施設一体型でなくても良いと思う。施設一体型だったら9年間一緒だと皆さんが受け取るから、この資料の中の施設隣接型であれば、小・中学校はすぐ近くだから、隣接が良いと思います。要は区域の問題、一番心配しているのは南中学校の生徒数が減っていく対策をどうするかが大事だし、いろいろなことを見越して建替を考えていく必要があるのではないかと思います

(参加者) 校舎の建替について、従来からの考えを言った方が良いかと思って述べさせていただきます。【資料4】の赤丸で囲ったところがあるのですが、これ真ん中部分を囲っていますけれども、例えば前半部分の「保護者支援の場・コミュニティづくり」とか、あるいは遊びとか、それから赤いかこの下の方「すべての人が楽しく、安心して成長し、活躍できる機会の創出」以下、教育と言っても、学校教育だけではなくて地域のコミュニティづくりというのも含めて、学校というのは大きな場所だと思うのです。幸いなことに、この南小・南中学校の校舎群の下には、せせらぎという一つの文化的な区域があります。よくよく考えてみたら地続きだと思うのです。渡り廊下さえ作れば、交流はできる。ですから、小・中学校の校舎の建替といった場合に教室というだけをイメージするのではなく、地域の文化施設と考えたら、非常に柔軟性のある校舎ができるのではないかと

と思います。この南地域自身が一つの大きな文化的な区域、これぐらいの大きな発想を持って校舎の建替ということを考えていただけたら、人数のことも比較的解消できるのではないかと思います。それから、今の建築技術からいったら、教室を区切るというのは割と難しいことではないという感じがします。柔軟な形の施設をつくれれば良いのではないかと思います。非常に未来のある場所ではないかと考えるのですが、どうでしょうか。

(教育長) ありがとうございます。今、おっしゃられた構想はまさに教育委員会も考えているところで、新しく一体型の校舎ができた時には、例えば地域連携ルームであったり、体育館やプールは地域にも開放していく施設であったり、そういうことで、ここが地域と一体的になった学校づくりを進めていく魅力的な学校だということをしっかりとPRしながら、なおかつ、校区も自由に選択ができるようにして、こういう学校だったら是非、南小・南中学校に一貫して9年間通いたいという児童生徒さんが増えて、学校規模も広がっていくのではないかとこの構想を持っているところです。

(参加者) 南小学校と南中学校の校区を一緒にするという、私がイメージしていた通りの案がここに出てきたので私は喜んでます。それと、小学校、特に高学年では教科担任を含めて、小中一貫という方向にあると思います。建物を一緒にするかどうかのイメージが湧かないが、まずは8月22日に計画されている視察で、問題点、課題を自分として実感したいです。小中一貫の1年生から9年生までというイメージは入ってくるのですが、必ずしもそうでもないのかとったりしますので、その辺を勉強したいです。

(事務局) その他、ご意見がございますでしょうか。

次第7でその他にも設けておりましたが、何かございましたらおっしゃっていただければと思います。

(参加者) 建てるのが最優先となりますので、校区というのは調整区域でとおっしゃっていたのですが、【資料5-2】の方を見ますと南小＝南中にしても、南中学校の人数が令和9年で174人なのです。今、150人で、24人しか増えないです。これでは、今の南中学校と生徒数がほとんど変わらない。もうちょっと生徒数を増やせるような校

区割りをしっかりしていただけたら、通学の安全性とか便宜性とか考えた時に、地域の保護者の方々は、今大瀬中学校だけでも南中学校へ行きたくないと言う方が果たしてどれだけ多いのだろうか、むしろ南中学校になりましたといたら、そんなに反対は出てこないと思うので、どこかで校区割りをきちっとして欲しいです。基本は、校区は町ごとですよ。それは条例か何かで決まっていますか。

(事務局) 教育委員会の規則というのがありまして、そちらの方で決められています。

(参加者) それは変えることができないのですか。どこかに掛けたら変えられますよね。議会に掛けてとか。そこまでいかないと南中学校は減る一方で、東ばかり増えるのです。西側が住宅開発できるかといったら、ほとんどできないのです。上の方に行ったら国定公園ですし、市街化調整区域もあります、風致もありますから、開かれないのはわかっていて、東の方で開発する、そうすると大瀬中学校が増える。南中学校は良くても現状維持がぎりぎりです。そこら辺は、校舎は優先的に建てないといけないのはわかるが、それと同時にやはり校区の見直しもやっていかないと、いくら校舎が新しくなっても解決できない、反対に途中から校区広げました、生徒数が増えました、教室が足りるのか、建て増しになる、また余計なお金がかかりますよね。それこそ、経済性とか言われますが、市としては税金を使う訳ですから、校区ということも、もっと柔軟的に考えて欲しいです。例えば、壱分西は全部大瀬中学校ですよ、南中学校に行きなさいと言って、誰もたぶん行きませんと言わない、反対に近くで安全でうれしいと言われる方が多くなると思うのです。壱分町だから大瀬中学校だという教育委員会の決まりがあるのであれば、変えていくことを平行しながら考えて欲しいと思います。

(参加者) 私も【資料4】赤丸で囲まれたところは、子どもに対する学習関係のところほとんどだと思いますが、やはりせつかく建てるのであれば基本方針1や基本方針3も含めたもので、地域の子どもやお年寄りとか、生駒市も古い町だし、文化もいっぱいあると思うので、総括的な学校になったらいいなとすごく思いました。教育とか知識

- とかだけでなく、そういう地域になったら素晴らしいと思いました。
- (参加者) 南第二小学校が統廃合するという時に、地域の方々、子育て中の母親父親からどういうことなのか説明して欲しいと希望があったかと思いますが、今回こちらではそういうものが全然なくて、建替を含めて進んでいきますという段階ですね、今提案していただいているのは。
- (教育長) 市民説明会は、南第二小学校に限らず全体で行っています。
- (参加者) 私、学校統廃合を考える会というものに入って、ずっと統廃合の様子を見てきたのです。会議の傍聴も全部行って見てきたのです。南第二小学校の場合は、全体に向けて、実際子育て中の人たちに対して、こういう話があると説明会もされたかと思うのですが。
- (教育長) 市民説明会は、昨年度はしていません。
- (参加者) 昨年度ではなくて、統廃合が始まる時なのですが。南第二小学校で、統廃合の話を地域協議会で話し合いを重ねられたのではないですか。どうするかという段階から、皆さん話し合いに入れたと思うのですが。
- (教育長) 地域協議会の話し合いには、委員さんが入られて、周りに傍聴の方がいらっしやったかと。今回も傍聴は公開しています。
- (参加者) 二年間、傍聴で行っていたのですが。今回の南小・中学校は、小中一貫で決まっていますか。
- (教育長) いえ、まだ決まっていません。【資料7】にあるように、第1回の後、定例教育委員会、また市長・副市長を交えた総合教育会議を重ねて、最終的に来年の1月に教育委員会として方向性を決定する予定です。まだ、決定はしていません。
- (参加者) では、保護者にどのような形で情報が渡るか教えていただいてもいいですか。私たちは知るチャンスはありますか。南小学校に通わせる保護者、南中学校に通わせる保護者が、そういうような話が進んでいるということを、情報を知ることができますか。私は、保護者代表で来てくださいと言われたのですが、全然知らなくて、ここに座っているのです。
- (事務局) この会議では、皆様の意見を聴取しながら、HPに会議の内容も報告という事でもらせていただきます。傍聴もしていただけるような

会議体にはしていますが、最終的な決定というのは教育委員会です。ただ、そういった風にしていきたいと思いますという内容を、この場で揉んでいただきながら、子どもが教育委員会に提案を出させていただいて、その方向性をつくっていただくということなのです。ですので、それが決まってからでないと市民の皆さんの方に、説明会を開くことは難しいのではないかと思います。イメージされているのは、たぶん南第二小学校の再編の際に皆さんに聞ける場があったということをおっしゃっていただいているかと思うのですが。

(教育長) 例えば、幼稚園の再編の時にはですね、この会とは別に要望があって、是非保護者の方を対象とした説明をして欲しいということで、園単位で開催をしたこともありました。もしそういうご希望があれば保護者を対象にした説明会、どの段階でというのはもう少し方向性が明らかになってからの方が良いと思うのですが、ご要望で開催することもできます。そういう意味で代表の方々には、ちょっと敏感に皆様方の要望や疑問というのを収集していただいて、届けていただけたらと思います。

(参加者) 情報収集ってすごく大変だと思うのですが。

(教育長) 要望ですね、こういうのが出ていますとか。

(参加者) それはすごく限られた範囲になるのですが。私のここに居る意味が、こんな会議がありますよということを、私が皆さんに知らせなくても、生駒市の方から保護者にちゃんと情報を伝えて欲しいです。HPにと言いますが、そのHPにこういう会議が行われましたということ載せることで、どれだけの保護者がそれを知ることができるのか、すごく疑問です。

(教育長) 保護者の方に、こういう会議を今行っていること、詳細はHPで、教育委員会や総合教育会議もすべて公開ですので、それを見させていただきながら経過を知っていただくということの広報はできると思います。

(参加者) 保護者全員にきちっとこういう話が進んでいるということ、教育委員会から提案されているということを知らないという事はすごくおかしい事だと思うのです。地域の方と保護者と学校とでやっていく事、あと教育委員会の方、みんなでやっていく事だと思うので

す。何が目的って子どものためですよね。もちろん保護者も地域の方も絶対そうだと思うのです。ちゃんと情報は保護者に行き渡るように、一部の方だけが知っているということがないようにしていただきたいのと、あと魅力的な学校づくりって言うてくださっているのですが、教育委員会の方が魅力的だと思っていることと、保護者が求めていることが必ずしも一緒ではないと思うのです。だから、そこも、きちんと子どものために考えて動いてくださっているのであれば、魅力のある学校をこのように考えているということを保護者に伝えて欲しい、そこが一致していないと一方的なものになってしまうと思います。果たして保護者がそこを求めているのかというのをきちんと検討していただきたいというのと、無理なお願いかもしれませんが、配布していただく資料は、今日こういうのをぱっと見て回転早く対応できたらいいのですが、当日見てどうですかと聞かれて意見を出すことは、すごく難しく、初めからすごくとんちんかんな事を言ってしまったという実感があるのです。事前に送付していただければ、きちんとこちら目を通して、意見をまとめて臨みたいと思いますので、送っていただけたらありがたいです。

(事務局) 資料につきましては、こちらでも事前に送付できるようにと思っています。次回は準備させていただいて、事前にお送りさせていただくようにしたいと思います。

(参加者) 今日、会議にギリギリに入ったのですが、地域の方が何しに行くのと聞くから、学校へ南小・中の会議に行くと言うと驚かれた。子どもさんを持っている地域の方が一番関心あると思うのだが、ここでずっと住んでいる方が、この会議をこんなところでやっていると聞くだけでびっくりされる。私たち別に秘密会議をやっている訳ではないので、HPに載せていると言われるが、見ている人は少ないと思います。私たちがこれからのことを考えて良い方向性を出そうとしているのだから、ちゃんと伝わるようなものがあると思う。住民の意見と、将来のこともあるだろうから、意見がオープンに出るようなシステムを、何か考えていただけたらありがたいと思います。知らない方は、実際そのように受け止めていらっしゃると思います。そこだけは念頭に置いておいて欲しいと思います。

(参加者) 今の意見に関してですが、せめて、月初めの回覧板でいいですから、今、南小・中学校の今後のことについて、南中学校の生徒数が減っていくことについて、みんなで考えていますという事を、傍聴も可能ですという事を知らせて欲しいと思います。

(参加者) 今回はまだそこまで行くと思っていなかったのですが、皆さんのおっしゃる意見がごもつともだだと思います。南小・中学校を今後どうしていくのかという会議が始まりましたということ、自治会の回覧で回すことはできると思います。それが一番良いのではないですか。たまたま、ここ三人並んでいます、各地区の代表、校区の自治会長の会議があったらそこで、状況を話すこともできます。今は、南地区だけの問題ですよ、南地区の極端に言ったら南小学校区の自治会長さんにこういう形で検討していますということ、何かあったら言ってくださいと言ったら良いのではないですか。

(教育長) そうしたら、保護者の方にも回るということですね。わかりました。

(事務局) その他、ご意見ございますか。

(参加者) 会議の開催が、平日の3時からですか。毎回こういう時間帯と平日になるという予定ですか。

(教育長) 特に決まっています。

(参加者) この時間だったら、子どもが家におりますので、土曜日か日曜日にしていただけたら。2時に幼稚園が終わって迎えに行って、連れて来なければいけないことになるのです。

(教育長) 8月22日の視察は、午後からでこれは決定です。第2回を、10月頃に考えていますが、その持ち方についてはまだ決定はしておりませんので、土曜日が希望という事であれば、皆様のご意見で。

(参加者) 小さな子が居るので、一人で置いとけないので。もっと関心を持って、知らないことがほとんどだと思うので、どんどん傍聴に来て欲しいと思うのです。回覧板でしっかり回った時に、保護者にはやっぱり聞いて欲しいし、聞きたいと思うのです。そうすると、そんな人たちも子どもを連れて来なければならないという事です。

(参加者) 保護者サイドとしては、日曜日とかが一番ありがたいですよ。

(参加者) 土曜日は構いませんが、第二、第三土曜日はダメなのです。全部民生の会議が入っています。

- (参加者) 自治会の行事は、土曜、日曜日が多いから、却って具合が悪いというのがあります。皆さん方が、あちこちで活躍されている方ばかりだから、なかなかご一緒できませんが。
- (参加者) 子連れでも良いよとおっしゃっていただけるのであれば。
- (事務局) 例えば、本日3時から始まりましたが、会場である学校の都合もあります。幼稚園のある時間であれば来られるとかありませんか。
- (参加者) 絶対に子どもを連れて来られないということではないのです。ないのですが、できたら、子どもが居ない時の方がありがたいです。この時間でしか無理というなら、連れてきて待っておいてということで、友達にもそのように言って、子どもも一緒にといいだけの話です。子どもが幼稚園に行っている間であれば平日でもありがたいです。
- (事務局) 前回、今日のこの時間に皆様方で決めていただいたところですが、やはりご出席いただきたいと私どもも思っているところですので、日程の折り合いがつかないという事であれば、ご無理申し上げないといけないこともあります。ご予約をお伺いさせていただきながら、一人でも多くの方が出ていただける日程を選定するという事をお願いできませんでしょうか。皆様のご事情もわかります、また会場の都合もありますので、考えながらという事をお願いしたいと思います。
- (事務局) 本日いただいたご意見で、事前の資料提供であるとか、回覧板で周知することも含めて、今後用意していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。次のスケジュールである8月22日の視察については、先方もございますので、決定とさせていただきます。先方ともう少し打合せを重ねまして、どういった手段で行くのが良いのかという事も含めて、改めてお知らせできればと思っております。第2回の会議を10月くらいに予定していますが、この辺りについても詳細が決まりましたら、お知らせいたします。本日の議事要旨についても、出来次第、皆様にご確認いただいた上で、HPに挙げていくといった手続きになりますので、よろしくお願ひします。
- (教育長) 本日は貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。最終的には定例教育委員会で決定していく事ですが、そのプロセス

として、一つ一つ皆様から出していただきました意見をしっかりと受け止めて、皆様方の意見を尊重しながら進めていきたいと思えます。本会議の進め方について、いろいろなご要望も出していただきました。できる限り、対応させていただきたいと思えますが、また何かお気づきの事がありましたらお知らせください。今後ともどうぞよろしく願いいたします。今日はありがとうございました。